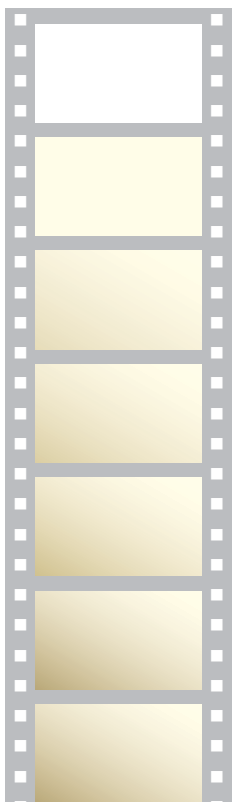


伸^{ノブ}さんのシネマトーク

鈴木 伸夫



第二回 『TVドラマ』『日真名氏飛び出す』は映画から

来年、7月24日で地上アナログ放送が終了し、テレビジョン放送は、高画質、高音質の地上デジタル放送に切り替わります。昭和33年（58年）を舞台にした映画「ALWAYS三丁目の夕日」では東京タワーが建設中でした。そして今、東京スカイツリーが東京タワーの高さを抜いて現在、建設中です。来年テレビ放送は大きく変わります。わが家にテレビがやって来たのは、昭和34年（59年）4月10日の「皇太子（現天皇）ご成婚パレード」が行われる前、ぼくが小学校6年生の時でした。昭和28年（53年）からテレビの放送は始まっていましたが、受像機が高価なため、テレビを持っている家庭は少なく、家にテレビがやって来るまでは、他人の家庭に上がり込んで見せてもらっていたのです。

夕食後、友達と一緒に町内会の家に行きました。今から考えれば、家庭の団らんのひとときに迷惑をかけたと思います。タイムリミットは午後9時頃までですが、土曜日だけは特別、午後9時半すぎまで許してもらえました。それは午後9時10分

から人気のドラマが放送されたからです。それに、子どもにとつて、おもしろいというよりも、怖いドラマでした。VTRは、まだない時代で、生放送あるいはフィルムでの放送でした。ぼくの記憶によると…



番組がスタートして

「暗闇」(無音)

画面、右側から正面へ男が一人入って来る。

その男は左手にパイプを持っている。

もう一人の男がスピグラ(アメリカ製の大型カメラ。スピードグラフィックという)を持って画面に入ってくる。

パイプの男は、無言でカメラの男に

「あれを写すんだ!」と、パイプで指示する。助手らしいカメラの男はうなずくとともにシャッターを切るとフラッシュが光り画面は一瞬、まっ白になってタイトルが出る

「日真名氏飛び出す」

♪ 音楽入る

昭和30年（55年）4月から昭和37年（62年）7月まで7年間、三百八十回の長寿番組となった「日真名氏飛び出す」は、土曜日午後9時10分〜40分までの30分ドラマ。探偵好きのカメラマン日真名進介（久松保夫）と助手の泡手大作（高原駿雄）のコンビが事件の謎解きに挑戦する推理ドラマ。原案は二人の映画評論家。昨年12月、99才で亡くなった双葉十三郎と南俊子（故人）。ヒントになった映画は、34年製作のアメリカ映画、W・S・ヴァン・ダイク監督、ウイリアム・パウエル、マーナ・ロイが出演した探偵好きの夫婦を描いた「影なき男」。（88年製作のアメリカ映画、ロジャー・スポティスウッド監督、シドニー・ポワチエ、トム・ベレンジャーの「影なき男」もおもしろいが、タイトルは同じでも内容がまったく違います）スポンサーは銀座通りに自社ビルを持つS製菓。主人公の二人が銀座で立ち寄るドラッグストアは実際にあり、栄養剤を番組の生放送中に飲んだのは、テレビ創世記では、珍

しい生CMでした。番組終了後、ドラッグストア三人娘の一人、笹森礼子は日活映画の専属女優になり、泡手大作役の高原駿雄は日活の脇役に、そして日真名進介役の久松保夫は、日本のテレビドラマのスター第1号となったのです。(続く)

(文中敬称略)

伸

(平成22年7月)